

2024年12月期第1四半期 アナリスト向け説明会 質疑応答録

【全体】

通期計画に対する第1四半期の進捗についてセグメント別に教えてほしい。

課題だと考えている事業はロボティクス事業とRV事業、ポジティブに動いているのが二輪車事業、計画通り進捗しているのはマリン事業である。二輪車事業は、プレミアム戦略が功を奏している。特にインドネシア、インド、ブラジルがけん引した。当社の独自性が評価され、価格を維持したまま販売ができた結果、営業利益率が劇的に改善した。マリン事業は、ディーラー在庫は計画通り減少しているものの、新製品F350Bの当社内の在庫は積み増している状態。営業利益への影響としては、減産により限界利益を下げているが、F350Bをきちんと販売できれば、通期では計画値通りの着地となると考えている。SPV事業は、計画通り。RV事業は、競争環境の激化により、厳しい環境が続くと考えている。ロボティクス事業は、欧州の計画に対するビハインド、中国の回復の遅れがある。為替は、期末に向けて変動があると考えているが、売上がビハインドしている分、販管費をコントロールして通期計画を達成していく。

第1四半期の営業利益は、為替の影響を除いても計画通りなのか。

第1四半期は、為替影響を含めて概ね計画通り。販売影響のマイナスについては販管費でコントロールした。二輪車はプレミアムモデルの値上がりが受入れられており、限界利益が良化。マリン事業は概ね計画通りに進捗、RV事業は計画からビハインドしている。第2四半期以降、マリン事業の船外機新モデルF350Bの増産やロボティクス事業の下期以降の中国向け販売等が期待通りに進捗すれば、為替の影響を除いても、営業利益の通期計画を達成できると考えている。

販管費コントロールについて教えてほしい。

コントロールした部分は、広告宣伝費などのプロモーション費用。二輪車事業において、プレミアムモデルの引き合いが強く、販促費をかけずとも売上があがった。人件費については、賃上げ要請に応じた結果、減益要因となった。

【ランドモビリティ事業】

二輪車事業のプレミアムモデルの在庫はまだ少ない状況か。また、地域別の状況について教えてほしい。

インドネシアは適正水準に近づいてきている。インドやブラジルは適正まで少しギャップはあるものの、欠品せず売上げが立つ状態である。二輪車事業の営業利益率の大幅な改善は、インドやブラジルのプレミアムモデルの販売増がけん引している。インドネシアも順調だが、概ね計画通り。先進国の利益状況も、為替影響や販管費のコントロールが効いており、良い状況である。一方、タイはファイナンス規制でローンが組みづらくなり、需要への影響が長引く可能性がある。フィリピンは他社攻勢により厳しい状態。ベトナムは在庫調整をしているが、まだ需要が完全に切り切っていない。これら3カ国は一気に好転することは難しい。現在けん引している国が弱含みにならなければ、二桁以上の営業利益率を達成できるとみている。

RV事業の市場環境の詳細を伺いたい。来年以降の市場や、商品の販売の見通しについて教えてほしい。

昨年はアウトドアブームにより需要が急増したが、下期に需要が落ち着いた。一方、パンデミックの影響を受けていた米国工場の生産状況が正常化し、円安影響もあって増収・増益になった。今年は販売拡大を狙っていたが、他社も同様で販売関連費用が大きかった。市場環境は想定よりも悪く、年内は厳しい状況が続くと考えている。

【マリン事業】

マリン事業の在庫調整の進捗について教えてほしい。

在庫調整は、概ね計画通り。未実現利益については、計画からビハインドしている。

アメリカの船外機の需要動向を、馬力帯別に教えてほしい。

昨年末から中小型の需要が減少しているが、小型は回復の兆しがあり、在庫補充を始めている。中型から大型の低馬力帯が今後の肝になり、在庫調整をしていく。350馬力は安定しており、計画通り大型を牽引している。増産を図っているが、この効果は第2四半期以降に大きく出てくることになる。

【ロボティクス事業】

中国のマウンターについて、下期回復の確度について教えてほしい。

現状はニュートラルだが、受注は増えてきている。第2四半期に実績として示すことができれば確度が高いといえる。

生成AI関連は、モールドング装置をフル生産中か。第1四半期の売上規模・受注残高・来期に向けた引き合い状況について教えてほしい。

機密上、定量的にはお示しできないが、フル生産で対応している。生産できればオーダーが増えるという状況なので、現在の受注分を短期で納入できるよう進めている。数字として示せるのは下期以降。受注と生産は高いレベルで継続する見通し。

能力増強について、第4四半期にかけて徐々に生産台数が増えるのか。

生成AI関連の能力増強は進めている。前倒しで進めたいが、具体的な時期についてお示しできるのは第2四半期以降。現状は当初計画通りの状況である。

以上